

米国現地法人らがKubernetesなどクラウドインフラの統合制御技術「Gimbal」を開発し、オープンソースソフトウェアとして公開

ヤフー株式会社（以下、ヤフー）の米国現地法人Actapio, Inc.（以下、Actapio）は、クラウドインフラ領域のコンテナ自動制御技術Kubernetesの導入支援などを行う米テクノロジー企業Heptioと協力し、OpenStackとKubernetesをまたぐクラウドインフラを統合制御するソフトウェア「Gimbal（ジンバル）」を共同で開発し、4月23日よりオープンソースソフトウェア（以下、OSS）としてGitHub上に公開しました。

<https://github.com/heptio/gimbal>（外部サイト）

「Gimbal」は、OpenStackで構築されたインフラとKubernetesで構築されたインフラが併存するクラウドインフラにおいて、双方のネットワークトラフィックを統合し、一括して制御できるOSSです。

「Gimbal」は、OpenStackによるクラウドインフラを活用し、大規模なネットワークトラフィックを抱えている企業に対して、サービス開発の効率化を促すコンテナ自動制御技術Kubernetesのスムーズな導入を実現します。また、既にKubernetesを導入し、OpenStackによるクラウドインフラと併存させている企業にとっても、一括して制御できるため、管理の利便性を向上させます。

そのため、新しい開発機能を一部のインフラ上でテストしながら、別のインフラ上で既存の機能を動作させ、それらを比較することも容易になるなど、「Gimbal」はサービス開発のさらなる効率化に寄与します。

ActapioとHeptioは、進行中の開発プロジェクトである「Gimbal」を、オープンソースコミュニティと連携して、更新してまいります。

なおヤフーは2018年3月、Kubernetesを筆頭とするクラウド領域のOSS支援を推進する団体CLOUD NATIVE COMPUTING FOUNDATION（CNCF）に国内インターネット企業として初めて参画しました。このような取り組みも含めて、ヤフーはクラウド領域においても最先端の技術を追求してまいります。